

岡山フィル
倉敷で初の定期演奏会

岡山フィルハーモニック管弦楽団第86回定期演奏会

Okayama Philharmonic Orchestra 86th Regular Concert

Sun/Oct 19, 2025 2:00pm Kurashiki Civic Hall

2025年

10/19日

14:00開演 (13:00開場)

倉敷市民会館

(岡山県倉敷市本町17-1)

リスト／交響詩「前奏曲」

リスト／ピアノ協奏曲第1番

バルトーク／管弦楽のための協奏曲

© K.MIURA

© Lyodoh Kaneko



岡山シンフォニーホール Presents

入場料 S席5,500円 A席4,400円
B席3,300円 B(ユース)席1,000円

※「岡山シンフォニーホール・岡フィル友の会」会員は10%割引。B(ユース)席は19歳以下に限る。(学生証をお持ちの方は25歳未満までご購入いただけます) ※未就学児の入場はお断りいたします。また、小学生以上の場合は入場券が必要です。※やむを得ない事情により、曲目、出演者が変更となる場合があります。

主 催：公益財団法人岡山文化芸術創造

共 催：公益財団法人倉敷市文化振興財団、岡山市、岡山県、RSK山陽放送、岡山県音楽文化協会

後 援：倉敷市、倉敷商工会議所、倉敷ケーブルテレビ

助 成：エネルギー・文化スポーツ財団



Okayama Philharmonic Orchestra
86th Regular Concert

© K.MIURA

Ken Takaseki

高関 健(指揮)

桐朋学園在学中にカラヤン指揮者コンクールジャパンで優勝。ベルリンに留学しヘルベルト・フォン・カラヤンのアシスタントを務めた。タングルウッド音楽祭でレナード・バーンスタイン、小澤征爾らに指導を受け、1981年にベルゲン交響楽団を指揮してヨーロッパにデビュー。1983年ニコライ・マルコ記念国際指揮者コンクール第2位。1984年ハンス・スワロフスキー国際指揮者コンクール優勝を経て、1985年1月に日本フィル定期演奏会で日本デビュー。国内オーケストラはもとより、ウィーン交響楽団、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団、デンマーク国立放送交響楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、クラグフォラム・ウィーン、ブラハ放送交響楽団、ケルン放送交響楽団などに客演。2013年2月と2017年4月にはサントペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団定期演奏会を指揮、世界に名だたる名門オーケストラから豊富な響けを引き出し聴衆や楽員から大絶賛を受けた。

オペラでも新国立劇場での團伊玖磨「夕鶴」、ザ・カレッジ・オペラハウスでのブリテン「ピーター・グライムズ」をはじめ、2019年3月はウラジオストクとサントペテルブルグで「夕鶴」、2021年4月には新国立劇場公演ストラヴィンスキー「夜鳴きうぐいす」とチャイコフスキー「イオランタ」を指揮、作品の魅力を存分に伝えて高い評価を得ている。広島交響楽団音楽監督・常任指揮者、新日本フィルハーモニー交響楽団正指揮者、大阪センチュリー交響楽団常任指揮者、群馬交響楽団音楽監督(現名誉指揮者)、札幌交響楽団正指揮者、京都市交響楽団常任首席客演指揮者などを歴任し、現在東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団常任指揮者(2015年4月～)、富士山静岡交響楽団首席指揮者(2021年4月～)、仙台フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者(2023年4月～)を務める。

2009年のビエール・ブーレーズ京都賞受賞記念ワークショップではブーレーズから、イツァーク・パールマン、ミッシェル・マイスキー、ギドン・クレーメル、ミハイル・プレトニョフ等の世界的ソリストや作曲家、特にマルタ・アルゲリッチからはシCHEDRIN作品の日本初演等3回の共演を通じてその演奏を絶賛されるなど絶大な信頼を得る、緻密なスコア分析からスケールの大きな音楽を作りだす名匠。

第4回渡邊暁雄音楽基金音楽賞(1996年度)、第10回藤森秀雄メモリアル基金賞(2011年)、第50回サントリー音楽賞(2018年度)を受賞。NHK等の番組にも定期的に出演するなど、幅広い活躍を続けている。東京藝術大学名誉教授

X (旧Twitter) @KenTakaseki

Mari Kodama

児玉 麻理(ピアノ)

国際的に高い評価を受けるピアニスト。ソロ、室内楽、オーケストラとの共演において、その卓越した演奏は聴衆を魅了する。自然な音楽性と明快な構成力、豊かな音色による表現力を備え、とりわけベートーヴェン解釈においては、新たな基準を確立している。

6歳で渡欧。14歳の時、最年少、最優秀でパリ国立高等音楽院に入学。ピアノをタチアナ・ニコラエワ、アルフレッド・ブレンデルなどに学ぶ。17歳でブルミエ・プリを獲得して卒業。同年、同音楽院のマスター・コースに進み、19歳で修了。この間、数多くのコンクール等で、優勝、上位入賞を果たす。

2024/25シーズンは、パリのル・セルクル・ドゥ・ラルモニー(指揮:ジェレミー・ロール)との開幕公演で、フォルテピアノによるベートーヴェンのピアノ協奏曲第1番を演奏。また、テノール歌手ユリアン・ブレガルドイエとのデュオや、ドイツ・ブライッハでのベートーヴェンのピアノソナタ全曲演奏シリーズなどが注目された。

これまでに共演した主なオーケストラには、ベルリン・フィル、ロンドン・フィル、イタリア国立放送、ハンブルク北ドイツ放送、リヨン国立歌劇場管、ロサンゼルス・フィル、モントリオール管、日本各地のオーケストラ、シンガポール管等がある。

録音活動も活発で、ベートーヴェンのピアノソナタ全集、ケント・ナガノ指揮によるピアノ協奏曲第0番から第5番を完成、「エロイカ変奏曲」などを収録した全集を発表。最新作には、スイス・ロマン管弦楽団との共演によるモーツァルトとブーランクの協奏曲、そしてブルックナーのピアノ作品集がある。

演奏活動に加え、音楽祭の芸術監督としても才能を発揮。夫ケント・ナガノとともにサンフランシスコのフォレストヒル・ミュージカル・デイズ・フェスティバルを共同設立し、オーフォード音楽祭の室内楽シリーズも主導した。2018年からは、イタリア・ポストイニャーノにおけるフェスティバル《トラ・ルーチェ・エ・ソーニョ》の芸術監督を務めている。

岡山フィルハーモニック管弦楽団

1991年に開館した岡山シンフォニーホールは、国内外のアーティストから音響の素晴らしいホールとして高い評価を獲得。これを機に文化庁の補助を受け、岡山にゆかりのある演奏家を中心に構成された岡山県初のプロオーケストラ。1992年に創設された。

以来、世界の著名な指揮者、ソリストを迎えて開催する定期演奏会をはじめ、若い演奏家の育成事業、青少年の情操教育に資する事業、子育て支援や地元演奏団体との共演等、地域における音楽芸術振興の中心的な役割を担っている。

2013年には初の首席指揮者としてハンスエルク・シェンベルガーが就任。また、2022年度からは、秋山和慶がミュージックアドバイザー(現在は名誉ミュージックアドバイザー)に就任。団として一層の飛躍を図っている。

平成12年 第1回岡山芸術文化賞グランプリ受賞。 平成21年 岡山県教育関係功労者表彰。
平成15年 第4回福武文化奨励賞受賞。 平成24年 山陽新聞奨励賞受賞。
平成16年 第1回マルセン文化賞受賞。



© Lyodoh Kaneko

プレイ
ガイド

岡山シンフォニーホールチケットセンター 086-234-2010 (10:00 ~ 18:00 休館日を除く)
岡山芸術創造劇場ボックスオフィス 086-201-2200 (10:00 ~ 18:00 休館日を除く)
岡山県音楽文化協会 086-224-6066
ぎんざや 086-222-3244

チケットぴあ (Pコード287-986) <https://t.pia.jp>
ローソンチケット (Lコード:63152) <https://l-tike.com/>
イープラス (ファミリーマート) <https://eplus.jp/>

岡山シンフォニーホール/岡山芸術創造劇場オンライン・チケット
<https://piagettli.s2.e-get.jp/ocaticket/pt/>
※右記からもご購入いただけます。

